

<学会及び研究発表会>

食品と環境中からの病原ウイルス検出法の検討

・岩切章，阿波野祥司，山田亨，永野喬子，大浦裕子

「第38回九州衛生環境技術協議会
(平成24年10月23日 福岡市)」

ノロウイルスによる食中毒疑い事例において，原因食品や環境中からウイルスの検出が可能になれば，感染源や感染経路の推定に役立つ科学的な所見も補完される．そこで，平成21年の厚労省通知によるA型肝炎ウイルス検出方法(表面汚染の推定される食品の処理のポリエチレングリコール(PEG)法)と平成22年の厚生労働科学研究(秋田県健康環境センター)による食品中のウイルス検査実施に向けてのパンソルピン・トラップ(パントラ)法で，食品，拭き取り材料および水を対象にノロウイルス(NV)の添加回収試験を行った．

その結果，6種類の食品からのノロウイルス(NV)の添加回収試験では，PEG法ではキャベツで回収率が高く，炭水化物(米飯，パン，饅頭)と魚フライ(油物)で低かった．NV試験液($4.8 \times 10^6/5\mu\text{l}$)を10倍段階希釈し添加回収した成績から，キャベツ乳剤中にNVが 3.1×10^5 コピー/ml以上含まれている検体では陽性，それ未満では陰性と判定された．ステンレス面にNVを添加し室温で3日間放置後に，綿棒と滅菌ガーゼで拭き取った回収率は約20%台であった．6種類の食品乳剤に，NVを添加して，パントラ法とPEG法による回収率を比較した結果，パントラ法の方がPEG法より回収率が高く，特に油物や練り物で効果がみられた．滅菌水にNVを添加してパントラ法とPEG法でビーフエキス(BE)の添加の有無による回収率はPEG法+BEが約50%で最も高かった．(模擬)検食を想定して刺身にNVを添加後，3日間冷凍保存後にパントラ法で調べた回収率は約40%であった．

九州地域におけるリケッチア症診断のラボネットワーク構築の試み

・矢野浩司¹⁾，御供田睦代²⁾，岸本壽男³⁾，安藤秀二⁴⁾

¹⁾宮崎県衛生環境研究所，²⁾鹿児島県環境保健セン

ター，³⁾岡山県環境保健センター，⁴⁾国立感染症研究所

「第19回リケッチア研究会・第5回日本リケッチア症臨床研究会合同研究発表会
(2012年12月9日 大津市)」

地方衛生研究所(地研)ではリケッチア症の検査や疫学調査に対応してきたが，近年，人事異動や退職によって検査技術の継承が途絶え，検査機能の低下をきたす例が見られている．この状況は九州ブロック内でも同様であることからアンケート調査を行い，検査体制における問題点を確認した．リケッチア検査を実施していない5地研における実施できない理由として，人員が少ない，人事異動が2~3年の周期であるため技術の継承が難しい等の問題点があげられた．

アンケート調査の結果から，個々の地研単独では検査体制の維持の困難なことが確認された．このため，検査のレベル向上や新規導入への支援などの技術的な対策に加え，ブロック内での検査・情報に関するネットワークの構築をさらに進めることが重要と思われた．そこでネットワーク構築の一環として『厚生労働科学研究費補助金事業『ダニ媒介性細菌感染症の診断・治療体制構築とその基盤となる技術情報の体系化に関する研究班』により，平成24年度九州ブロックリケッチア症検査診断研修会を企画した．内容としてリケッチア症と検査法の総論 間接蛍光抗体法実習 マダニとツツガムシの同定実習を計画している．

九州ブロック内での検査体制の維持，さらに検査自体の質の向上，九州地区内の感染地・感染源・病原体の把握につながると思われる．

百日咳の集団発生時に分離・検出された *Bordetella holmesii* について

・吉野修司，黒木真理子，山田 亨，阿波野祥司，永野喬子，岩切 章，大浦裕子

「第38回九州衛生環境技術協議会
(平成24年10月23日 福岡市)」

2010年11月，宮崎県A市で百日咳の集団発生が起こり，百日咳様の症状を呈した患者から *B. holmesii* が分離された．*B. holmesii* は CEX に感受性があるため，一般に用いられている CEX 濃度が $5 \mu\text{g/mL}$ までの CSM 培地か CFDN 培地を用いれば百日咳菌も *B. holmesii* も分離が可能であ